

## 政策5 まちのにぎわいの創出

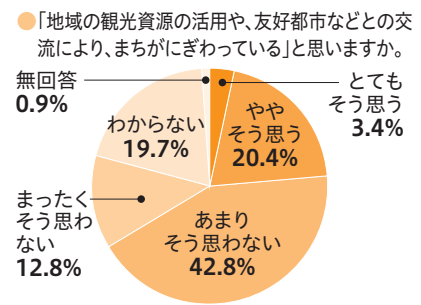
### 10年後の姿

区民を主体とした、他自治体との交流を積極的に支援することで、文化の異なる地域との交流が深まることにより、にぎわいが充実しています。

区民、団体、事業者、目黒区それぞれの連携・協力のもと、地域のあらゆる観光資源を活用し、区民相互または区民と来訪者相互の交流を推進することによって人々の心を豊かにし、まちの活力が高まっています。

### 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
		令和13年度末
地域の観光資源の活用や、友好都市などとの交流により、まちがにぎわっていると思う区民の割合	23.8%	50%



### 現状と課題

目黒区は、都心に近く、みどり豊かで文化的なまちというイメージが定着しています。旧前田家本邸、目黒区総合庁舎、寺社など文化的価値の高い資源が多くあり、近年では桜の時期の目黒川や大橋ジャンクション屋上の目黒天空庭園など、区内外から多くの人が訪れる観光資源が増えています。しかし、まだ知られていない観光資源もあり、地域の特性を生かした魅力あるまちづくりを一層進めていく必要があります。

また、区は交通の利便性が良いこともあり、今後増えてくる来訪者の対応として、様々な観光資源の情報発信が重要となってきていることから、年齢や国籍、障害の有無などに応じ、効果的に発信していくことが求められています。そして、魅力ある観光コンテンツの充実とともに、地域に対する環境への配慮や整備、来訪者をつなぐ人材の育成などを進め、観光を通じたにぎわいのあるまちを形成することが必要となっています。

そして、にぎわいあふれる豊かな区民生活の実現に向けては、友好都市をはじめ各地域との幅広い交流を進めるとともに、地域の活性化と相互の発展を図ってきました。宮城県角田市、気仙沼市に加え、平成29(2017)年に新たに石川県金沢市と友好都市協定を締結し、様々な交流を行っています。また、全国的な知名度を誇る「目黒のさんま祭」で有名な目黒区民まつりや、目黒区商工まつりなどを通じ、友好都市以外の様々な自治体とも交流を行っています。そして、海外の友好都市の中国北京市東城区や韓国ソウル特別市中浪区とは、未来を担う青少年を中心とした国際交流に力をいれています。

今後、まちのにぎわいを創出していくためには、友好都市をはじめとする各地域との連携を更に深め、互いの魅力を高め合う必要があります。そして、地域住民主体の交流を一層活発化することが課題となっています。

## 施策一覽

### 施策 1 多様な地域交流の促進

#### 【主な取組】

- 自治体間の交流推進
- 住民交流などへの参加促進

### 施策 2 観光まちづくりの推進

#### 【主な取組】

- 観光資源の発掘と活用
- 魅力ある情報の収集と発信
- 訪れたいまちへ向けた環境づくり



目黒区民まつり



めぐろ観光まちづくり協会「まち歩き事業」

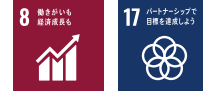
施策 1 多様な地域交流の促進

施策の概要

これまで進めてきた交流を基礎としながら、地域の活性化と相互発展を目指し、オンラインでの交流等を含めた新たな視点から都市間の連携、交流事業の更なる充実を図っていきます。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、区民、団体、事業者等との協働を積極的に進め、公民連携を意識した自治体交流を進めていきます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
友好都市等との交流事業数	20事業	60事業

現状と課題

- 区は国内・海外を含めた5つの友好都市を中心として、幅広い自治体交流を行っています。国内交流では、令和3(2021)年度で45回目を迎える目黒区民まつりへの各自治体の参加や、各都市との個別の交流等様々な形で交流を行っています。また、国際交流では、スポーツや文化を通じた青少年交流を行っており、今後は様々な分野での交流を進めていきます。新型コロナウイルス感染症拡大後は、新たにオンラインでの交流も始まっており、距離や時間を超えて交流が行えることで、交流がより一層広がることが期待されています。
- 区民生活をより豊かなものにするために、対面での交流はもとより「新しい生活様式」を踏まえた交流の手法を検討し、更に地域交流を促進することが求められています。様々な方法で地域交流を促進し、まちのにぎわいを創出していきます。

## 主な取組

### ●自治体間の交流推進

友好都市を中心とした自治体と幅広い交流を推進し、相互理解と信頼を深めるとともに、互いの魅力を高め合いながら、地域の活性化と発展を図ります。

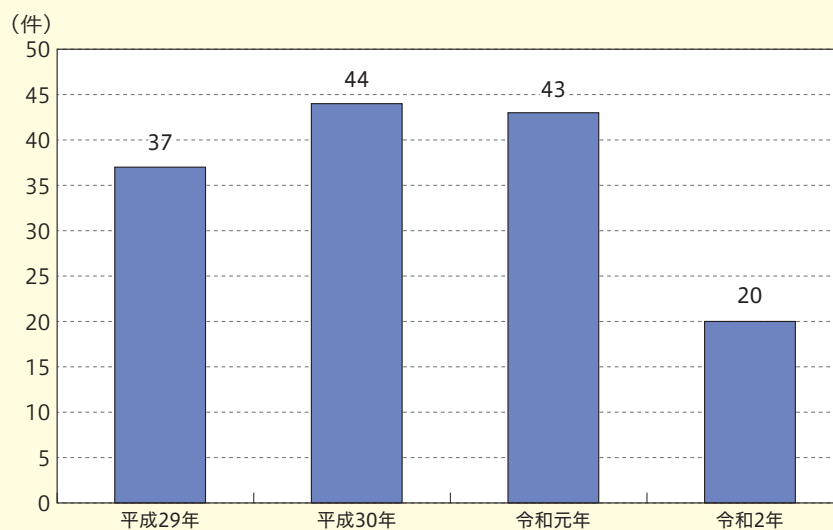
### ●住民交流などへの参加促進

住民同士の活発な交流が行われるよう、交流事業の周知活動の拡充や、交流活動への積極的な支援を行っていきます。

## 関連計画

### ●めぐろ多文化共生推進ビジョン

友好都市等との交流事業数のデータ(年間件数)



〈資料〉友好都市等との交流事業及び支援活動等実施状況についてより作成

施策 2 観光まちづくりの推進

施策の概要

様々な観光資源を通じて、住む人にも訪れる人にも魅力が感じられるようににぎわいのあるまちづくりを進めていきます。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、一般社団法人めぐろ観光まちづくり協会と連携しながら、目黒区独自の歴史、文化、自然、産業、行事、食などの地域資源を生かした、楽しく快適な「まち歩き」のできる観光まちづくりを推進していきます。

関連するSDGsのゴール



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
観光ボランティアガイド等の人数	20人	80人
まち歩き事業の参加者数	225人 (令和元年度)	500人

現状と課題

- 国は、観光立国実現に向けて、関係行政機関の綿密な連携を確保しながら取り組むため、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を策定しました。また、東京都は「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン」等を策定し、都内各地域の観光資源を開発・洗練していくことで多彩な魅力に触れてもらい、国内外から訪れる多くの旅行者が快適に観光を楽しむことができる受入環境の整備を進めました。
- 区においても、平成27(2015)年に目黒区観光ビジョンを改定し、社会状況や環境の変化に対応した観光まちづくりを推進しています。区内には、歴史ある伝統と文化を併せもつ多くの見どころや観光資源を保有しており、近年では都市観光のスタイルとして定着してきた「まち歩き観光」のニーズがますます増加しています。区民をはじめ、様々な目的で目黒区を訪れる多くの人々の「まち歩き」がもたらす効果を、活力と魅力あるまちにつなげていくため、観光まちづくりを推進していく必要があります。今後、目黒区の地域特性を生かした様々な観光資源を活用し、SNS\*をはじめとするデジタルツールによる積極的な情報発信により、誰もが魅力を感じられるような賑わいのあるまちづくりに取り組んでいくことが重要な課題となっています。

## 主な取組

### ●観光資源の発掘と活用

観光資源の魅力を発掘し、多くの人々が目黒区の魅力に触れる機会をつくります。また、芸術文化や国際交流など様々な分野と連携し、観光資源の活用を図ります。

### ●訪れたいまちへ向けた環境づくり

様々な目黒区の魅力について理解を深め、楽しめるまち歩き事業を推進するとともに、区内の歴史、文化、景観や観光スポット等について広く知識をもった観光ボランティアガイド等の育成を図っていきます。

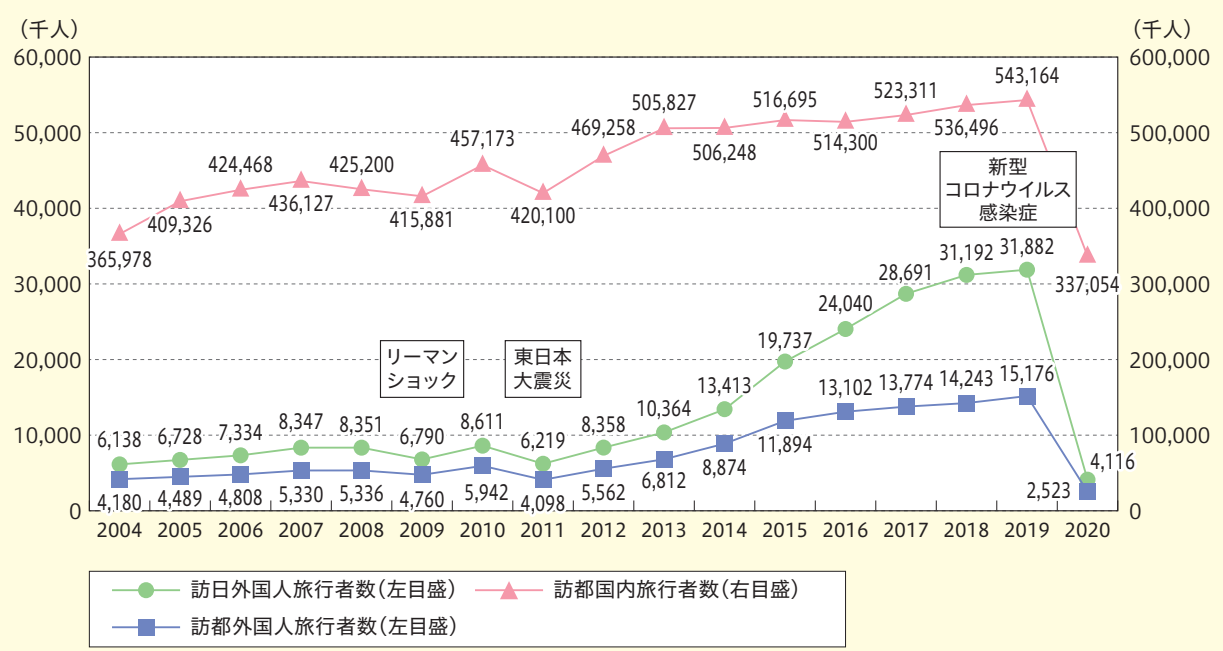
### ●魅力ある情報の収集と発信

目黒区内の施設やイベントなどの観光資源の情報を幅広く収集するとともに、デジタルツールを活用して、まちの魅力を区民や来訪者へ積極的に発信していきます。

## 関連計画

### ●目黒区観光ビジョン

訪日・訪都外国人旅行者数及び訪都国内旅行者数の推移



〈資料〉東京都観光客数等実態調査(東京都)より作成



## 政策6 互いの文化を認め合い共に生きるまちづくり

### 10年後の姿

行政手続きの多言語化や、相談機能の充実を図るとともに、やさしい日本語の普及を推進することで、外国人住民が地域で安心して暮らしています。

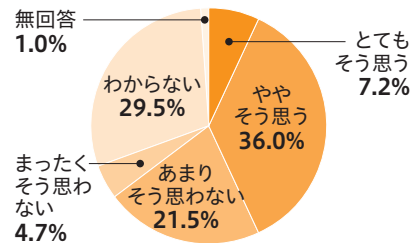
大使館、国際交流団体、企業、学校などの地域の関係団体との連携を更に強化し、外国人住民も積極的に地域活動に参加することで、外国人ならではの視点や文化をまちづくりに生かしています。

地域活動や文化交流を通して、外国人と日本人が互いの文化の違いを認識し、多様な価値観、文化を認め合う社会を形成しています。それにより、国籍関係なく、あらゆる人が目黒区への愛着や誇りをもって生活しています。

### 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
		令和13年度末
国籍を問わず誰もが生活しやすく、互いの文化や価値観を理解していると思う区民の割合	43.2%	70%

●「国籍を問わず誰もが生活しやすく、互いの文化や価値観を理解している」と思いますか。



### 現状と課題

令和3(2021)年3月末には区内の外国人人口は約9,000人、外国人住民の割合は3.2%となっています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限の影響により、近年増加し続けていた人口は減少となりましたが、新たな在留資格の創設など、今後も外国人住民・労働者の変動が見込まれます。

また、目黒区の特徴として、区内の大使館は23区の中で4番目に多く、外国人住民の国籍数も115か国とあらゆる地域に及んでいます。このような状況の中、目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)におい

ては、74.5%の区民が「多様性を認め合う地域社会の実現」について重要であると回答しており、誰もがお互いの文化を認め合い、地域社会の一員として共に支え合う社会をつくる必要があります。

そのためには、外国人住民が安心して暮らせる環境づくり、大使館や国際交流団体などの関係団体と連携した地域活動への参加、そして海外の友好都市との交流を通して、あらゆる文化に対する相互理解を促進することが重要です。

## 施策一覧

### 施策 1 外国人住民への生活支援

#### 【主な取組】

- 多言語による行政情報の発信及び窓口での通訳タブレットの普及
- 「やさしい日本語」の普及
- 日本語学習支援の推進

### 施策 2 相互理解と地域参画の促進

#### 【主な取組】

- 外国人の地域社会への参加の促進
- 海外都市との交流推進
- 多様な団体との連携による国際交流の推進



国際交流フェスティバルの様子



三区間交流事業の様子



施策 1 外国人住民への生活支援

施策の概要

外国人住民が安心して暮らせる目黒区を実現するため、やさしい日本語を用いた情報発信、行政情報の多言語化や日本語学習支援を進めていきます。また、令和2(2020)年度から導入した通訳タブレットの利用を促進し、行政窓口と円滑にコミュニケーションがとれるよう支援します。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、必要な情報を正確にすばやく伝達し、地域とのつながりを実感できる取組を実施することにより、外国人住民を含めたあらゆる人が安心して生活できる社会をつくります。

関連するSDGsのゴール

3 すべての人に健康と福祉を  
4 質の高い教育をみんなに  
10 人や国の不平等をなくそう  
11 住み続けられるまちづくりを

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
多言語で情報提供している出版物等	17件	30件
通訳タブレット年間利用件数	242件	720件
日本語教室への参加人数	5,137人 (令和元年度)	8,000人

現状と課題

- 目黒区内には多くの大使館があり、外国人住民の国籍数も115か国に及び、多様な文化をもつ人々が暮らしています。また、国は平成30(2018)年の入管法の改正によって、新たな在留資格を創設し、外国人材の受け入れを推進しています。さらに、大規模災害のおそれや感染症による医療情報の必要性、急速なデジタル化の進展など、近年外国人を取り巻く環境は大きく変化しています。
- そのような状況の中、目黒区の外国人住民が安心して生活できる環境づくりを進めることが求められています。日本人と変わりなく必要な情報を正確にすばやく受け取ることができる取組や、やさしい日本語を用いた情報発信、行政情報の多言語化やイラストやユニバーサルデザイン\*を用いる等、情報発信方法の更なる充実を図ることが重要です。
- 多様な文化、国籍をもつ人々が暮らしやすい目黒区を目指し、言語や生活習慣の違いなどから生じる様々な生活上の課題に対応することが求められています。

## 主な取組

### ●多言語による行政情報の発信及び窓口での通訳タブレットの普及

目黒区ホームページやSNS\*などのアクセスしやすい媒体により、生活にかかわる行政情報やサービスについて、多言語での情報発信を行います。また、外国人の窓口サービス向上のため、通訳タブレットの利用を促進します。

### ●「やさしい日本語」の普及

あらゆる人にわかりやすい「やさしい日本語」を用いて行政情報の発信を行います。区民や職員を対象に研修を実施することで認知度を上げ、様々な媒体での普及を目指します。

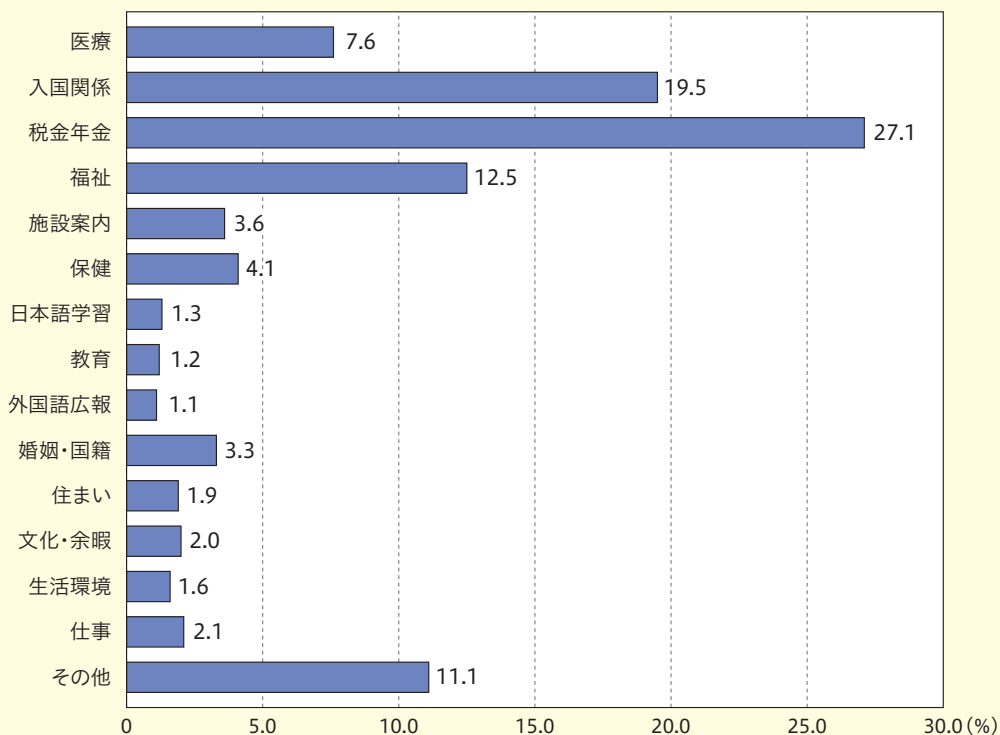
### ●日本語学習支援の推進

公益財団法人目黒区国際交流協会や目黒区内の支援団体が実施する日本語教室を広く周知し、外国人住民が生活上に必要な日本語学習を支援します。特に、未来の地域社会の担い手となる、外国人児童を対象とした日本語教室などの取組について、関係団体と連携しながら推進していきます。

## 関連計画

### ●めぐろ多文化共生推進ビジョン

外国人相談内容別件数割合(令和2(2020)年度)



※令和2(2020)年度外国人相談窓口受付件数:2,629件(来庁件数:2,166件、電話件数:463件)

(資料)目黒区相談窓口実績資料より作成

施策 2 相互理解と地域参画の促進

施策の概要

目黒区内の関係団体と共に外国人住民が言葉や文化の壁を乗り越えて、地域活動に参画する取組を推進します。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、公益財団法人目黒区国際交流協会をはじめとした外国人支援団体や区内大使館と連携し、それぞれの国や文化を紹介する機会を区民に提供することで、外国人住民が地域住民の一員として活動に参画できるような仕組みづくりを進めます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
「多様性を認め合う地域社会の実現について」重要であると感じる区民の割合	74.5%	90%
国際交流協会ボランティア登録者数	677人	1,000人

現状と課題

- 近年、目黒区の外国人人口は増加しており、令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人口が減少しましたが、今後も一定の外国人住民が区内で暮らしていくことが想定されます。今後、少子高齢化が進む中でコミュニティを持続していくためには、外国人住民を地域社会の中に受け入れ、地域社会を支える担い手として共に歩いていく姿勢が求められます。そのためには、外国人住民に対する偏見や差別をなくすことに加え、多様な価値観や文化をお互いに理解し、尊重していくことが必要となります。
- また、平成29(2017)年から目黒区の友好都市である中国北京市東城区、韓国ソウル特別市中浪区による三区間交流事業が始まり、未来を担う青少年同士の国際交流がスタートしました。海外都市との交流は区民の国際理解の向上や相互理解の促進につながります。
- 互いの文化へのふれあいを通じたコミュニティの形成、地域社会において必要となる人の交流やつながり、助け合いを促す環境整備、そして「誰一人取り残さない」多様性と包摂性のある社会へつながる取組が求められています。

## 主な取組

### ●外国人の地域社会への参加の促進

より多くの外国人住民に地域活動へ参加してもらうため、イベント等の情報提供や町会・自治会への加入などを積極的に呼びかけ、地域社会への参加を促進します。

### ●多様な団体との連携による国際交流の推進

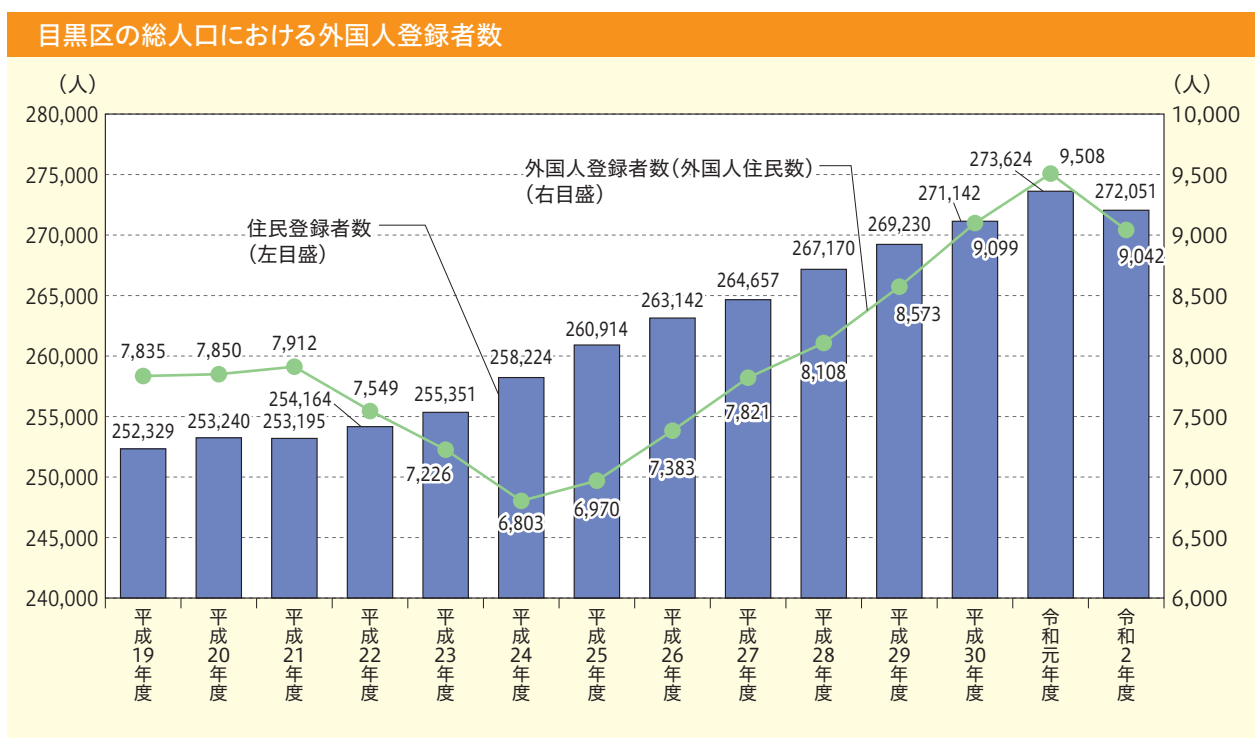
目黒区内の12の大使館や公益財団法人目黒区国際交流協会をはじめとした外国人支援団体と協力し、各国や地域の文化、伝統等を区民が理解する機会をつくり、国際交流を推進します。

### ●海外都市との交流推進

国際理解の向上のため、現在行っている青少年同士のスポーツ交流に加え、目黒区民が海外都市の文化等に触れることができる交流機会の充実を図ります。また、新たな交流について、調査・研究を進めます。

## 関連計画

### ●めぐろ多文化共生推進ビジョン



## 政策7 スポーツに親しむ環境づくり

### 10年後の姿

子どもから高齢者まで、また障害の有無にかかわらず、区民がライフステージ\*に応じたスポーツ活動ができるようスポーツの場と機会の提供がされており、多くの区民がスポーツに取り組んでいます。

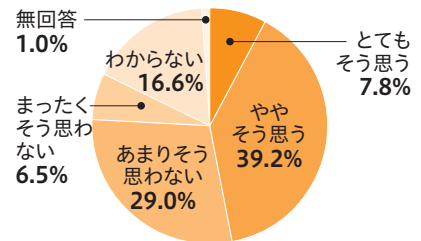
スポーツに取り組むことにより、区民の心身の健康が増進され、健康寿命の延伸が図られています。

地域で仲間とスポーツを行うことにより、区民同士の交流が生まれ、コミュニティが形成され、人が集い活力あるまちが実現しています。

### 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
		令和13年度末
誰もが気軽にスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じた交流が生まれていると思う区民の割合	47.0%	75%

●「誰もが気軽にスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じた交流が生まれている」と思いますか。



### 現状と課題

目黒区スポーツ推進計画(平成28(2016)年度～令和7(2025)年度)では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%とすることを目標にしています。目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)では、スポーツ実施率は、前回の同調査(平成29(2017)年度実施)から7.1ポイント上がり、52.2%になりました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大後は45.8%とやや低調となっており、「新しい生活様式」の中で、区民が安全・安心にスポーツができる環境を整備し、スポーツ実施率の更なる向上を図ることが重要です。また、区民の平均寿命の伸びに伴う健康寿命の延伸

や地域コミュニティの形成を図っていく必要があり、スポーツ活動は心身両面にわたる健康増進や地域におけるつながりを広げていく上で大きな役割を担っています。

目黒区は、関係組織と連携してスポーツを通じた区民の健康の維持・増進を図っていくとともに、地域におけるつながりを広げていくため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて実施した機運醸成事業で得られた成果をレガシー\*としていくなど、コミュニティ形成につながるスポーツ環境の整備が重要となっています。



## 施策一覽

### 施策 1 スポーツに親しむ機会の提供

#### 【主な取組】

- スポーツ・運動の場の提供の充実
- 様々な視点からの機会提供の充実
- 一般公開や教室・講習会等の充実
- 障害者の運動機会の提供

### 施策 2 スポーツを通じた健康づくりの支援

#### 【主な取組】

- 身近な場における運動・スポーツ機会の普及
- 健康・体力づくり相談事業の推進

### 施策 3 スポーツを通じたつながりの創出

#### 【主な取組】

- 交流の場の創出
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じたレガシー\*の継承
- スポーツ指導者の育成



大規模改修工事を終えた中央体育館競技場

施策 1 スポーツに親しむ機会の提供

施策の概要

スポーツを通じて、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、人格の形成を図るとともに、人々や地域間の交流を促進し、人と人とのつながりを創出していきます。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、障害者を含めた子どもから高齢者まで幅広い世代が健康的な生活をおくれるよう、スポーツ・運動の実施率の向上を図る仕組みづくりを進めます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
1年間ほとんど運動を行わなかった人の割合	26.5%	15%
成人の週1回以上のスポーツ実施率	52.2%	65%

現状と課題

- 区は、平成28(2016)年度からの10年間を対象とした目黒区スポーツ推進計画で「成人の週一回以上のスポーツ実施率を65%」に、「一年に一度もスポーツを行わなかった人を15%」となることを目標に、これまで、多様な区民を対象にスポーツに親しむ機会の提供や参画できるスポーツイベントの企画など様々な事業を実施することにより、スポーツ実施率の向上に努めています。その結果、運動・スポーツを行う方が確実に増加する傾向が見られていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大後については、その影響により、低下する傾向が見られます。
- そのため、「新しい生活様式」を踏まえた実施率の向上に取り組んでいく必要があります。より一層様々なプログラムの実施を通じてスポーツに親しむ機会の提供の充実に取り組んでいく必要があります。

## 主な取組

### ●スポーツ・運動の場の提供の充実

日常的に身近な場所で気軽にスポーツ・運動を行う意識を高めるとともに、運動習慣を身に付け健康の維持増進を図るため、そのきっかけとなる場の提供の充実に取り組みます。

### ●一般公開や教室・講習会等の充実

指定管理者の専門性や事業実施のノウハウを生かし、各施設の一般公開や教室・講習会等について、「新しい生活様式」を踏まえながら、区民ニーズを捉えたより魅力あるものとし、充実を図ります。

### ●様々な視点からの機会提供の充実

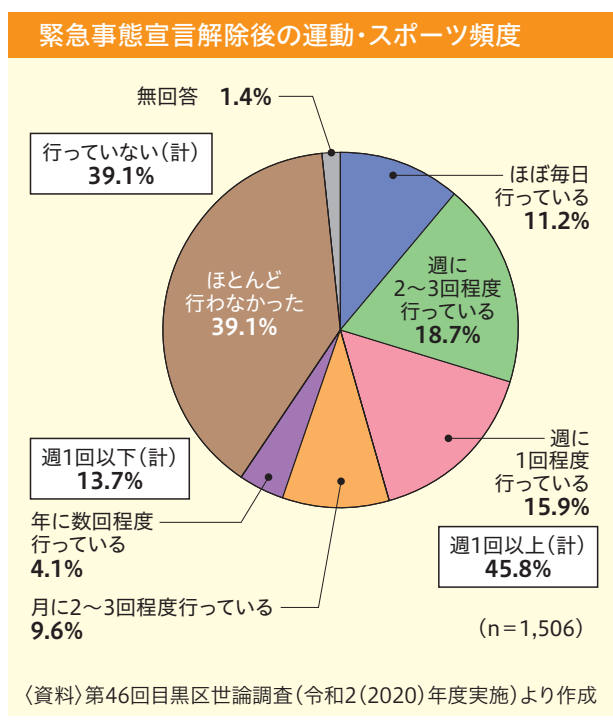
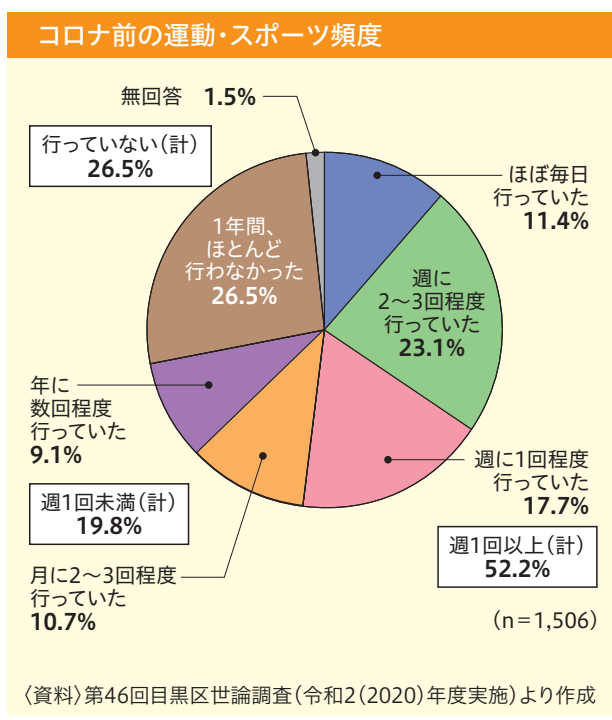
より多くの方にスポーツ・運動の魅力を伝えるため、「行う」ことに加えて「みる」「支える」など様々な視点からスポーツ・運動に親しむ機会の提供の充実に取り組みます。

### ●障害者の運動機会の提供

障害のある方も一緒に参加できる一般公開の実施など、身近な場所で、日常的に参加できる機会を拡充し、障害者がスポーツ・運動に親しむ機会の充実に取り組みます。

## 関連計画

- 目黒区スポーツ推進計画
- 目黒区生涯学習実施推進計画
- 目黒区子ども総合計画
- 目黒区障害者計画



施策 2 スポーツを通じた健康づくりの支援

施策の概要

より多くの区民が身近な場所で継続的に健康づくりのための運動・スポーツを行える場と機会を充実させ、日常生活の中で運動習慣が根付くよう支援します。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、子どもから高齢者まで、また障害の有無にかかわらず、すべての人々がスポーツの効果を享受し、生涯を通じて健康で生き生きと暮らせるよう、関係事業者や団体等と連携しながら、スポーツを通じた健康づくりの支援に取り組んでいきます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
運動習慣者(成人の1回30分以上、週2回以上)の割合	34.5%	50%

現状と課題

- 目黒区の高齢化率(65歳以上の人口比率)は年々上昇しており、今後もこの傾向が続くと予想されます。また、平均寿命は男女とも延伸を続けており、東京都や全国に比べて長く、東京都内区市町村の中でも上位に位置しています。こうした状況の中、区民一人ひとりが健康で生き生きと暮らすためには、寿命が長くなるだけでなく、心身ともに自立して生活できる健康寿命の延伸を図ることが重要です。
- スポーツには、体力の向上や生活習慣病の予防、ストレス解消など、心身両面にわたる健康の維持・増進に効果があります。スポーツを適切に継続することで、健康の維持・増進等を通じた健康寿命の延伸への貢献が期待されるため、運動習慣の日常化を図るための取組を進めていく必要があります。

## 主な取組

### ●身近な場における運動・スポーツ機会の普及

ラジオ体操、ジョギング、ウォーキング、水中ウォーキング、アクアエクササイズ事業の実施等、地域で身近に運動・スポーツを行える場を提供し、生活の中で運動習慣が根付くよう支援します。

### ●健康・体力づくり相談事業の推進

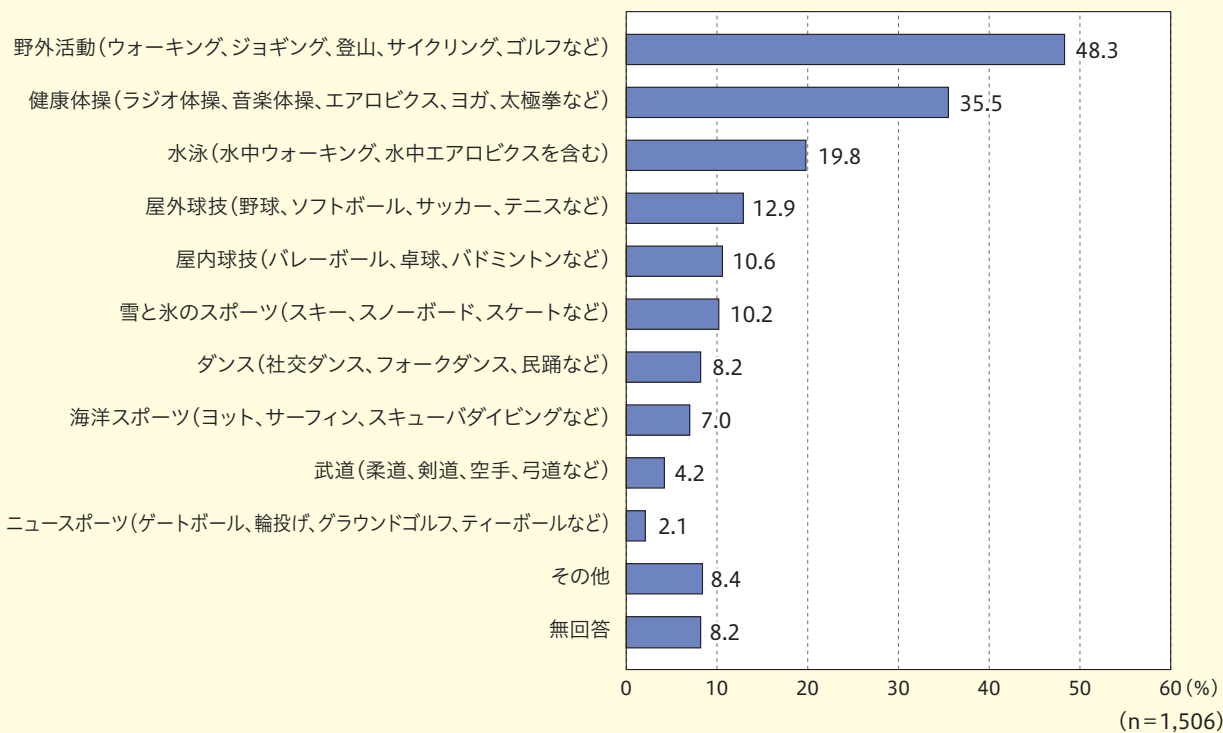
区民を対象に、個人の目的や体力に合わせた安全かつ健康・体力づくりができるよう、体育館に医師や管理栄養士等の専門スタッフを配置し、医療機器等を用いて相談・アドバイスをを行います。

## 関連計画

### ●目黒区スポーツ推進計画

### ●健康めぐろ21

### 今後行いたい運動・スポーツ(複数回答)





施策 3 スポーツを通じたつながりの創出

施策の概要

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、人格の形成、さらには人々や地域間の交流の促進に寄与するスポーツを通じて人と人とのつながりを創出することにより、スポーツ・運動の実施率の向上に取り組んでいきます。

関連するSDGs\*のゴールを踏まえ、目黒区は、人と人とのつながりを広げるとともにスポーツ・運動の実施率の向上を図るため、パートナーシップを強化しながらニーズを捉えた魅力的なつながりの場の提供づくりを進めます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
参加した地域活動におけるスポーツ大会・教室などの「スポーツ活動」の割合	32.5%	40%

現状と課題

- 地域活動は人と人とのつながりを広げていく上でとても重要な役割を担っています。第44回から第46回までの目黒区世論調査の結果をみると、地域活動への参加経験者の中で、スポーツ大会・教室などの「スポーツ活動」の分野が上位となっており、参加しやすい地域活動の一つであるといえます。
- また、第45回目黒区世論調査(平成29(2017)年度実施)では、地域活動に参加したことはないが「参加してみたい地域活動」に挙げた分野として「スポーツ活動」の割合が最も高く、その関心の高さがうかがわれます。調査結果から、「スポーツ活動」は地域におけるつながりを広げていく上で大きな役割を担える可能性のある分野であるといえます。
- 一方で、第46回目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)では、「地域活動に参加しやすくなるために必要なこと」として、「参加活動の誘いやきっかけとなる機会の充実」や「関心のある地域活動があること」などの割合が高く、「新しい生活様式」を踏まえつつニーズを捉えた魅力ある「スポーツ活動」の実施に取り組む必要があります。

## 主な取組

### ●交流の場の創出

スポーツをすること、みることを通じて、人と人とのつながりが深まり、地域活力の向上につながる効果が期待できます。様々な世代のつながりを広げていくため、「参加する」「みる」ことができるスポーツイベントなどを実施することにより交流の場の創出に取り組みます。

### ●スポーツ指導者の育成

スポーツ・運動の魅力や素晴らしさを伝えていくスポーツ指導者は、スポーツを通じたつながりを広げスポーツ実施率の向上にも重要な役割を担っています。スポーツ・運動を行う様々なシーンでの活躍が期待されるスポーツ指導者、ボランティアを育成するための機会の充実に取り組みます。

### ●東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じたレガシー\*の継承

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて実施した機運醸成事業は、スポーツ・運動を通じたつながりを広げスポーツ実施率の向上に資する取組であり、価値あるレガシー\*です。機運醸成事業で得られた成果を有効活用し、スポーツ・運動への関心を高め、つながりを広げ、実施率の向上に取り組みます。

## 関連計画

- 目黒区スポーツ推進計画
- 目黒区生涯学習実施推進計画
- 目黒区子ども総合計画
- 目黒区障害者計画

